

井原市公共交通会議（令和5年度第3回）議事録

と き 令和5年10月27日（金）

10：00～12：00

ところ 井原市民会館 鏡獅子の間

1. 開 会

会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 26名中 21名（代理出席1名）
（一丸タクシー 鳥越委員の代理で佐藤委員が出席）

2. 大舌会長あいさつ

- ・ 委員の異動について報告（日の丸タクシー中野委員→佐藤委員）
- ・ 委員あいさつ（佐藤委員）

3. 協 議

1）井原市地域公共交通計画の改定について

- ・ 事務局より資料1を用いて説明

（会長） 井原市地域公共交通計画の改定についてご質問等はないか。

（委員） 資料1、40頁の地域内幹線について、もともと民間路線バス（支線）が入っていたが改定案ではなくなっている。民間路線バス（支線）は何の事を指していたのか。その支線自体が無くなって別の位置づけになったのであれば教えてほしい。

（事務局） あいあいカーを導入する際に縮小した路線バスが改定前の支線に該当する。現在は民間路線バスの市内幹線のみが残っている状態で、市内幹線として位置づけている。

（委員） 43頁の地域内幹線のイメージ図が変わってないがこのままでいいのか。再編により地域内幹線の役割の一部が予約型乗合タクシーに移ったというイメージだと思うので、もっとそれがわかるようになれば良い。

（委員） 公共交通の確保・維持に係る利用者1人あたりの市支出額が令和7年度から500円/人に設定されているが、今後利用者負担をお願いすることはあるのか。

（事務局） 民間路線バスも含めて設定しており、利用者の負担増については想定していない。

（委員） ライドシェアの現状と公共交通への参入について教えていただきたい。

（委員） 中央省庁から地方局に対して具体的な指針や方針等は示されていないが、今後は公共交通空白地域の足を確保するといった視点で検討が進んでいくと思う。一方で、輸送業界では観光地や市街の需要に対応できるよう運転手を増やす取組や労働条件の改善、イメージの向上などに取り組んでおり、

今すぐに全国でライドシェアが始まることにはならないと考えられる。今後、方向性等を示すことができる段階になれば共有していきたい。

- (委員) 公共交通の将来イメージ図があるが、美星・芳井地区の住民だけでなく、井原地区の住民が美星・芳井地区に行く際にあいあいカーや予約型乗合タクシーが利用できるような想定なのか。
- (事務局) 現在は市内幹線として井原地区から美星・芳井地区には路線バスが運行しているため、今後協議しながら井原地区における公共交通の再編について検討していきたい。
- (委員) 井原市全体で公共交通網を考えていく中で、井原地区の住民も将来的にあいあいカーや予約型乗合タクシーを利用できる体制を考えていただきたい。
- (会長) 原案のとおり承認してよいか。

【協議事項承認】

2) 「縮小」の運行見直し基準に該当する路線の検証結果について

- ・事務局より資料2を用いて説明

- (会長) 「縮小」の運行見直し基準に該当する路線の検証結果についてご意見等ないか。
- (委員) 予約型乗合タクシーの利用なしということは認知されているのか。エリアで一人も利用がないのは疑問である。
- (事務局) 実際にここ数年利用がないことは事実で、サービスについての案内はかわら版等を通じて行っているが、詳細な原因はわかっていない。引き続きサービス内容について周知していきたい。
- (委員) 将来的に車を運転できない人が増えてくるので、公共交通をさらに利用していかないといけないと思う。
- (会長) 原因については、今後、再編等を検討していく中で現状を調査する必要がある。
- (委員) 全く利用がないエリアについて、困っていないのであれば問題はないと思う。予約型乗合タクシーの運行事業者と市の契約はどのようなものなのか。運行しない間も経費がかかっているのであれば問題だと思う。
- (事務局) 1回の運行に対しての単価契約を結んでいるので、運行していない場合経費はかかっていない。
- (委員) 本当に困っている人がいないか調査が必要である。アンケート等の全体的な調査を行うと時間がかかってしまうので、地区に行って話を聞くぐらいでも十分だと思う。
- (委員) 井原あいあいバスの北条早雲線について、利用者が激減しており理由として毎日利用していた高校生がいなくなったということだが、1人の高校生が利用しなくなったのか、複数人高校生が利用していたが1人分の利用者が減ったということなのか。

- (事務局) 令和4年度に20%弱あった高校生の利用が0%になっている。卒業か他の交通手段に移行したのか、理由はわからないがこれまで毎日乗車していた高校生の利用がなくなったことが要因である。
- (委員) 予約型乗合タクシーで利用がないエリアがあるようだが、目的地はどこに設定してあるのか。
- (事務局) 地区中心部に設定しており、基本的には井原駅やそれぞれの地区の中心部まで利用することができる。
- (委員) 芳井地区には行けないのか。
- (事務局) 地域内幹線である路線バスに乗り換えてもらう必要がある。交通結節点であるバスセンターや井原駅まで行けるので、そこから先は路線バスを利用してもらうよう案内している。
- (委員) 今後、予約型乗合タクシーは絶対必要だと思っている。芳井地区で老人クラブ連合会のイベントを開催したが、公共交通機関が全く使えないと聞いており、井原市内を自由に行き来できる交通網の体制が必要だと感じた。エリアの設定や目的地の見直しも含めて検討をお願いしたい。
- (会長) 原案のとおり承認してよいか。

【協議事項承認】

- ・ あいあいカーの利用状況について事務局から説明
- (委員) 近所の方が月3回程度利用しており、運転手が優しくて親切で、足が不自由だが荷物を運ぶ際も助けてもらっているという話を聞いた。あいあいカーの運行について感謝していると聞いたのでお伝えしたい。
- (委員) 利用者からの意見は何か聞いているのか。
- (委員) 利用者にアンケート等はしていないが、要望は現時点では聞いていない。
- (委員) 目的地に到着したら一端降りて、一般のタクシーで別の目的地に行きたい場合はタクシーを待たないといけないため、この仕組みを納得してもらえらるまで時間がかかると聞いている。
- (委員) 老人クラブの役員が利用することが多いと思うが、もう少し融通を利かせてもらいたい。あいあいカーと一般のタクシーの連携がうまくいかないという意見があった。
- (委員) 情報があれば気兼ねなく運転手に言ってもらえれば事務所の方に伝わるようになっている。
- (委員) 一般乗用タクシーと乗合タクシーで併用する形で車両が登録してあれば、運行が終わった後と乗用から一般タクシーに運行を切り替えることはできる。ただし、次の予約に対応できるようあいあいカーの運行に時間に余裕を持たせておくなどして、あいあいカーの運行に支障が出ないようにする必要がある。制度面について、運輸支局に相談があれば一緒に良い方法を考えていきたい。

- (会長) 運行に対する課題が出たので、改善が可能な点は改善をお願いしたい。
- (委員) あいあいカーを利用して交通結節点に到着した後、別の交通手段への乗り換えが大きな問題だと思う。循環バスに乗り換えるにしても何線に乗ったらいいかもわからない。利用者はできるだけ長い距離を歩かずに目的地まで行きたいと思うので検討をお願いしたい。
- (委員) 現状、乗合での利用は少ないので、このまま利用者が増えないのであれば、ある程度は柔軟に対応することはできるかもしれない。乗合が発生した場合が課題ではあるが、現在 7~8 割は 1 便に 1 人が利用している状況なので、中心部でタクシーを利用したい際は気軽に相談してもらいたい。
- (委員) 不便な方の意見等、具体的な事例を上げてから対応する方法が良いのではないか。必要最低限の移動手段を維持していく中で、最も担保しないといけないのは山間部のライフラインだと思う。乗降ポイントを増やすだけでも解決できることもあると思うので、例えば実際利用している地域の方をオブザーバーとして会議に参加してもらい意見を反映できるような体制も必要ではないか。公共交通を今後も維持していくためには、問題点や課題の実例を集めた上で対応方法を検討していくべきだと思う。
- (会長) 統一的なルールを作った上で運行してもらいたい。本日出た課題を事務局や事業者と協議して皆様にお諮りさせていただけたらと思う。様々な意見等を反映できるような体制を考えていきたい。

3) その他

- ・岡山県パーソントリップ調査及び集計結果について説明

- (会長) 岡山県パーソントリップ調査についてご意見等ないか。
- (委員) 路線バスにおける休日の移動では、高梁市から浅口市までのトリップ数が示されているがこのような移動があるものなのか。
- (委員) 高梁市～浅口市間を直接結んでいるバス路線は存在しないため、違う場所を経由して行ったということになる。また、複数の交通手段を利用した場合、代表的な交通手段である路線バスが集計で示されている。
- (会長) 出発の際の手段と言われたが、家を出た際の最初の交通手段という認識で問題ないか。例えば、出勤でバス停や駅まで自転車でいった場合、バスや鉄道を乗り継いでもその人たちは全て自転車がカウントされるのか。
- (委員) 1つのトリップの中で自転車と路線バスを乗り継いだ場合、できるだけ輸送量の多い物から優先的にカウントされるため、自転車と路線バスを両方使った場合は路線バスでカウントされる。また、2頁の表には1つのトリップにおける代表交通手段が記載されている。
- (委員) 県全域でパーソントリップ調査を行った例はほとんどなく、全国的に行われている調査は地方の精度が低いものになっているため、この岡山県のパーソントリップ調査は今後の施策を検討していく上で非常に重要なデータである。調査の実施時期がコロナ禍という懸念はあるが、県北から県南

まで同じ期間で行っているため精度も期待できる。他の市町村への移動状況等が把握でき、次の計画を考える際もベースになるものだと思うので、今後の活用に期待したい。

(事務局) パーソントリップ調査の中ではあいあいカーなど市内の移動は調査票に記載がないと思う。また、県外との行き来は調査票の中では設問に設定されていないのであれば、これらも可能であれば今後の調査で項目を設定してほしい。

(委員) 集計結果では市町村内の移動や県外の移動を示していないが、実際の調査票では全ての移動について質問している。井原市で 510 名の平日の移動状況を把握しているので、個別のデータを各市町村に提供することで様々な活用ができると考えている。

《交通事業者から》

(委員) 全国旅行支援の影響で貸切バスの運行が非常に増えており、世の中の流れとしては本格的にコロナが収束しているという状況である。今年度は安定した事業が送れるのではないかと思う一方で、コロナ禍による運転手不足が非常に大きな課題で、コロナ禍によって業界全体の動きが止まっており、対応が 3 年分遅れているのが実状である。そのためバスはあるが人がいない事業者が全国でも多い。また、10 月から貸切バス料金が標準運賃という形で約 23%、全国的に上がっている。この値上げは原油高等への対応や運転手の給与面の改善等、様々な要因があるものの依然として運転手不足は業界の大きな問題でもあるので、北振バスとしても井原市で働いていただける若い人材をしっかりと育成しながら、採用も強化しようと考えている。業界内で大型 2 種免許を持っている人を取り合う状況では業界が続いていかならないと思う。市内での雇用も十分できるので、皆さんにも興味のある方がいればお声がけいただきたい。

(委員) 運転手不足や今後の働き方改革による労働時間の上限の改定(2024 年問題)等により運転手の募集は急務で、交通事業者としてもできるだけ今の路線を維持しながら運行したいと思っている。また、公共交通を利用する上で交通に関する学び等、利用する本人に利用の目的を持たせるという視点も重要ではないかと思う。皆さんと知恵を出し合って考えていきたい。

(委員) 人員不足により観光バスの運転手も足りていない現状である。また、秋は紅葉シーズンで需要があるのだが、12 月以降は仕事がなくなり、需要と供給のバランスが難しいことも課題である。今後の 2024 年問題等で運転手の確保は各事業者で苦勞して状況ではあるが、日の丸タクシーは井原市高屋町に本社と福山市に福山北営業所があり、環境に配慮した EV タクシーを購入する予定である。運転手や井原市で働くことに興味がある方にはお声掛けいただきたい。

(委員) タクシーの待ち時間が問題になっており、朝の病院の時間帯は 30 分待つて

もらっている。皆さん同じ時間帯に利用したいとは思いますが、運転手の人数も限られているため、待ち時間が発生することにご理解いただきたい。

(委員)

井原鉄道の通勤定期はコロナ禍前まで戻ってきているが、通学定期は実人数も減っていることもあり、他でカバーしなければならないと思っている。また、一般の切符利用者はコロナ禍前の85%前後で戻ってはいないが、最近インバウンドでの利用が増えており、岡山空港の4路線中3路線の運行が再開したことがプラスに働いている。また、井原鉄道でも世代交代が必要で車両や施設の整備の人員を募集しており、興味がある方がいれば声がけをしていただければと思う。

(会長)

前半は利用者目線でのサービス向上に関する意見、後半は公共交通を支える各交通事業者の悩みや課題等を聞くことができた。持続可能な公共交通を目指す中で双方の面から考えていくことが重要であり、本日はそのことがわかる大変良い会議になったと思う。

4. 閉 会

(副会長)

事業を長期に続けていくと疎かになってくる部分もあると思うので、利用者のニーズをきちんと捉えることが大事である。また、市内の公共交通の現状が税金を投入してかつ赤字が前提というサービスである中、この会議で検討すべき生活交通の範囲はどの程度で、どこまでの要求に対して対応するかは悩ましいところだと思う。本日は様々な立場の意見を聞くことができ、レベルの高い良い会議だったと感じている。

以上